

也 十月三十日 大蔵

伺之通 十一月十日

法制課議案

別紙大蔵省伺ノ趣別ニ可差支儀モ無之候ヘハ左案
ノ通御指令相成可然乃テ供高覽候也 十一月二日 大蔵

大蔵省上申

從來新聞紙社ヘ府縣ヨリ進達相成候書類ノ内管内
景況或ハ學校ハ餘金窮民ハ施金孝子節婦賞典等ノ
類ヲ殆メ其他障礙無之ハ明治六年十一月十日既
ニ伺齊ノ上是迄下附謄寫為致來候處迄來數社ニ及
ビ往々煩雜ノ儀モ有之候旁一社ヲ限り其他差止候
條此段上申致置候也 十月廿七日 大蔵

六月廿八日 八年

第百十壹號

明治六年十月第三百五拾貳號ヲ以テ布告候新聞紙條目
被廢更ニ別冊ノ通被定候條此旨布告候事 課局
新聞紙條例

第一條

凡ソ新聞紙及時々ニ刷出スル雜誌雜報ヲ發行セント
スル者ハ持主若クハ社主ヨリ其ノ府縣廳ヲ經由シテ
願書ヲ内務省ニ捧ケ允准ヲ得ベシ允准ヲ得ズモ發行
スル者ハ法司ニ付シ罪ヲ論シ 凡ソ條例ニ違フ者ハ府
縣廳ヨリ地方法司ニ
付シ罪ヲ論シ發行ヲ禁止シ持主若クハ社主及編輯人印刷人
各々罰金百圓ヲ科ス其ノ詎テ官准ノ名ヲ冒ス者ハ各
々罰金百圓以上貳百圓以下ヲ科シ更ニ印刷器ヲ沒入

ス

第二條

願書ニ舉クヘキノ目左ノ如シ

一紙若クハ書ノ題號

二刷行ノ定期毎日毎週毎月或無定期ノ類

三持主ノ姓名住所。會社ナレハ差金人ヲ除クノ外

社主一人若クハ數人ノ姓名住所

四編輯人ノ姓名住所。編輯人數人アル者ハ編輯人

長一人ノ姓名住所

五印刷人ノ姓名住所。編輯人自ラ印刷人ヲ魚ル者

ハ其由ヲ著ス

右ノ五目中詐謬アル者ハ發行ヲ禁止若クハ停止シ日時

ルヲ限リ發行ヲ止ムハ仍ホ願人ニ向テ拾圓以上百圓以下

ノ罰金ヲ科ス

第三條

編輯人若クハ編輯人長退任シ若クハ死去スル時ハ假

ニ編輯人若クハ編輯人長ヲ定メ刷行スルヲ得但シ

遅ク凡十五日内ニ退任死去リ算ス翌新定セル編輯人若ク

ハ編輯人長ノ姓名住所ヲ持主若クハ社主ヨリ其府縣

廳ニ届ケ出ヘシ若シ期內ニ届ケ出サル時ハ發行ヲ停

止シ持主若クハ社主罰金百圓ヲ科ス

其他第二條願書ニ載スヘキノ目ニ於テ一ノ變更アル

時ハ遅ク凡十五日内ニ持主若クハ社主及編輯人若ク

ハ編輯人長ノ連名ヲ以テ届ケ出ヘシ若シ期內ニ届ケ

出サル時ハ持主若クハ社主及編輯人若クハ編輯人長

各々罰金百圓ヲ科ス

第四條

持主若クハ社主及編輯人若クハ假ノ編輯人タル者ハ内國人ニ限ルヘシ

第五條

持主若クハ社主自ラ編輯人長タルヲ得

第六條

編輯人二人以上アル者ハ其一人ヲ撰テ編輯人長トスベシ

毎紙毎卷ノ尾ニ編輯人印刷人名ヲ署シ編輯人數人アル者ハ編輯人長名ヲ署シ編輯人若クハ編輯人長疾病事故アル時ハ代理人ヲ定メ其名ヲ署スヘシ若シ署セザル時ハ編輯人若クハ編輯人長若クハ代理人罰金百圓以上五百圓以下ヲ科シ印刷人罰金百圓ヲ科ス

紙中若クハ卷中載スル所ノ事ニ付テハ紙尾署名ノ編輯人若クハ編輯人長一切責ニ任スベシ

第七條

紙中若クハ卷中載スル所第十二條以下ノ禁ヲ犯シ若クハ謗謗律ヲ犯シタル時ハ編輯人首ヲ以テ論シ筆者ハ從ヲ以テ論ス持主若クハ社主情ヲ知ル者ハ編輯署名ノ人ト同ク論ス

第八條

新聞紙及雜誌雜報ノ筆者ハ投書者ハ筆者尋常ノ瑣事ヲ除クノ外凡ソ内外國事理賤人情時態學術法教議論及事官民ノ權利ニ係ル者ハ皆其ノ姓名住所ヲ著スヘシ
筆者變名ヲ用ヒタル時ハ禁獄三十日罰金拾圓ヲ科ス

他人ノ名ヲ假托スル者ハ禁獄七十日罰金貳拾圓ヲ科
スニ罰并セ科シ或ハ偏ヘニ
一罰ヲ科ス以下之ニ倣ヘニ

第九條

外國新聞紙及雜誌雜報ヲ翻譯シテ記入スル者ハ尋常
ノ瑣事ヲ除クノ外譯者名ヲ署シ其事第十二條以下ノ
禁ヲ犯シ若クハ謗謗律ヲ犯シタル時ハ譯者其責ニ任
スヘキト第七條筆者從テ論スルノ例ニ依ル

第十條

事犯編輯人ニ止リ禁獄ヲ命シタル時ハ特ニ發行ヲ停
止シタル時ヲ除クノ外持主若クハ社主ヨリ假ニ編輯
人ヲ定メ若クハ新タニ編輯人ヲ定メテ仍ホ發行スル
トヲ得其ノ編輯人ヲ定メスシテ發行スル者ハ發行ヲ
停止スヘシ

第十一條

新聞紙若クハ雜誌雜報ニ指名サレタル官署會社若ク
ハ人民ヨリ辨白書若クハ改正ヲ求ムルノ書ヲ寄スル
片ハ其書ヲ受取リシヨリ直チニ具次端ニ刷出スヘシ
違フ者ハ編輯人罰金拾圓以上百圓以下ヲ科ス

第十二條

新聞紙若クハ雜誌雜報ニ於テ人ヲ教唆メ罪ヲ犯サシ
メタル者ハ犯ス者ト同罪其教唆ニ止マル者ハ禁獄五
日以上三年以下罰金拾圓以上五百圓以下ヲ科ス
其教唆シテ兇衆ヲ煽起シ或ハ官ニ強逼セシメタル者
ハ犯ス者ノ首ト同ク論ス其教唆ニ止マル者ハ罪前ニ
同シ

第十三條

政府ヲ變壞シ國家ヲ顛覆スルノ論ヲ載セ騷亂ヲ煽起
セントスル者ハ禁獄一年以上三年ニ至ル迄ヲ科ス其
實犯ニ至ル者ハ首犯ト同ク論ス

第十四條

成法ヲ誹毀メ國民法ニ遵フノ義ヲ亂リ及顯ハニ刑律
ニ觸レタルノ罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ為ス者ハ禁獄一
月以上一年以下罰金五圓以上百圓以下ヲ科ス

第十五條

裁判所ノ斷獄下調ニ係リ未タ公判ニ付セサル者ヲ載
スルヲ得ズ及裁判官審判ノ議事ヲ載スルヲ得ス
犯ス者ハ禁獄一月以上一年以下罰金百圓以上五百圓
以下ヲ科ス

第十六條

院省使廳ノ許可ヲ經ズシテ上書建白ヲ載スルヲ得
ス犯ス者ハ罰前條ニ同シ

附則

此ノ條例布告ノ前ニ已ニ允准ヲ得テ發行セル新聞紙
雜誌雜報ハ新タニ願書ヲ捧クルニ及ハス但シ府縣廳
ヲ經由メ内務省ニ届クル為ニ此ノ布告ヲ承ルヨリ第
十日迄ニ^{布告ヲ承ルノ翌}府縣廳ニ向テ第二條五目ノ
届書ヲ捧クヘシ第十日ヲ過テ届書ヲ捧ケサル者ハ府
縣廳ヨリ發行ヲ止ムベシ其ノ更ニ願ヒ出ル者ハ第一
條ニ依ルヘシ

従前編輯人數人アリテ編輯人長ナキ者ハ條例布告ヲ
承ルヨリ第二日迄ニ^{布告ヲ承ルノ翌}編輯人長ヲ定メ
若クハ假ニ定ムヘシ第二日ヲ過テ刷行シタル紙若ク

ハ書ニ編輯人長ノ署名ナキハ府縣廳ヨリ發行ヲ止ムベシ其ノ更ニ願ヒ出ル者ハ前ニ同シ

第百四拾四號

本年貳第百十一號布告新聞紙條例附則中左ノ一條追加候條此旨布告候事七月三十日
課局

新聞紙及ヒ時々ニ刷出スル雜誌雜報ノ類ハ其刷出スル毎ニ東京府下ハ内務省准刻及司法省
課務ニ其
它ノ地方ハ内務省准刻及府縣廳
課務ニ二冊枚ツ、ヲ納ム
ハシ

紙端

(目)

司法省伺

新聞紙記載ノ儀ニ付兼テ條例ニ被設置候處此程往々不都合ノ事トモ掲載致シ候向モ有之石ハ其儘ニ差置候テハ此上如何様ノ不都合ヲ生シ候程モ難計

候ヘハ目下條例ニ相觸候分ハ一々其非ヲ可取糾儀

ハ勿論ニ候處萬一之カ為メ人言ヲモ防キ候様ニテ

ハ却テ公平ノ御趣旨ニ相叶申間敷ト存候何卒彼此

御斟酌預防ノ方法被為立然ル上ニテ内務文部兩省

ヘモ可然御達ニ相成候様致度此段相同候也七月二十三日

三日 司法

伺ハ趣ハ即今取調中ニ付速テ可相達事四月十三日

左院議案内務課
主査

別紙司法省伺ノ趣調査候處具陳ノ條々至極尤ノ次

第二付左葉ノ通御指令相成可然存候右新聞紙取締

方法ノ儀ハ過日未取調中ニ付不日上陳可仕候也四月

五日 司法

司法省伺

此程新聞紙上へ不都合ノ事共掲載候向モ有之旁別
紙ノ通條目御追加相成候様致度此段相同候也三七年

廿五日 司法

同ノ趣新聞紙發行條例改正取調中ニ付追テ可布告
事 五月五日

別紙

一人ノ罪ヲ告訴スル者及ヒ民事詞訟諸願狀ヲ錄入
スルヲ禁ス

但審断指令ノ後ニ係ルモノハ此限ニアラス

左院議案内務課
主査

別紙司法省上申新聞紙條目追加ノ儀調査候處新聞
紙發行條例ノ儀ハ改正相成度旨ヲ以主々取調當時
上申中ニ付同ノ趣ハ左ノ通御指令相成可然存候此

段上陳候也七年四月三十日
司法

内務省伺

一官府ノ指令布告達ニ處置裁判等ニ係ル事實ヲ指
シテ利害得失ヲ議スル者立論ノ當否ハ姑ク置キ
大抵人民ノ公權利ヲ主張スルモノニシテ假令其
言ノ柔順ナルモト雖モ行政上ノ權利ニ於テ幾
クカ障礙ナキヲ保テ難シ況ヤ漫ニ批判評論ヲ為
スニ於テハ大ニ政治ノ妨害トナルモノアリ然レ
モ亦此ニ因テ事情ヲ知ルヘク時トシテハ益ナシ
ト為サス依テハ言ノ誹毀ニ涉ラス又故ラニ異論
ヲ設ケ公衆ヲ煽動スルニ非スシテ唯各人ノ持論
ヲ載スル如キハ事ノ政務ニ關スルモ都テ不問ニ
置キ可然候哉

一 辯駁ハ各人ノ論說ニ關シ誹謗ハ各人ノ身ニ關
ス故ニ論說ハ公ニシテ身ハ私ナリ公ナル者ハ
條理ニ基クテ要スルヲ以テ之ヲ論スルモ可ナリ
私ナル者名譽ヲ要スルヲ以テ之ヲ論スルハ害アリ
然レモ辯駁亦各人ノ名譽ヲ害シ事或ハ誹謗ニ
類スル者アリ若一々之ヲ區別セントスレハ答辯
駁議ハ一切為スヘカラス因テ辯駁ト誹謗トハ大
率子言ヲ論スルト人ヲ論スルトヲ以テ區分致シ
可然哉

一 投書家ノ姓名住所不分明ノ者ハ固ヨリ掲載致間
敷候ヘモ普通住所姓名ヲ以シ其書編輯人異存ナ
ケレハ之ヲ載スヘク果シテ犯ス所ナケレハ則己
ム若シ犯則ニ該ル者アルハ第七條編輯人首ヲ

以テ論シ投書家徒ヲ以テ論スル勿論ニ候ヘトモ
假令普通ノ住所姓名ヲ以テスルモ或ハ偽ナシト
シ難シ糾シテ其人ナキハ編者ノミヲ罰シテ然
ルヘク候哉

一 寄書投書ノ類ハ新聞社中ニ於テ檢閲校正ノ順序
アルヲ以テ受取シヨリ直ニ其次號ニ刊行候儀相
成難ク強テ之ヲ為ントスレハ檢閲疎漏ニ涉リ其
レカ為メ犯則ニ罹リ候テハ難澁ノ旨願出候者モ
有之候ニ付右ハ少ク時日ヲ弛メ候共格別差支候
儀モ無之ニ付左ノ通御改正相成候方可然哉

第十一條

新聞紙若クハ雜誌雜報ニ指名サレタル官署會社
若クハ人民ヨリ辨白書若クハ改正ヲ求ハルノ書

ヲ寄スルハ毎日刊行ノ向ハ其書ヲ受取タル日ヨリ遅クトモ三日ノ内ニ刷出シ隔日或ハ月々數回刊行ノ向ハ直ニ其次號ニ刷出スヘシ違フ者ハ編輯人罰金拾圓以上百圓以下ヲ科ス

一筆者ノ校指ナル寓言ニ假托シテ暗ニ成法ヲ誹毀シ亂階ノ媒ヲ為ス者ナキニ非ス然レモ其言糺糾トシテ指的シカタキ者ハ之ヲ懲治スヘカラス因テ條例ニ左ノ一條御差加ニ相成度候事

第 條

寓言空論ニ假托シ國家有害ノ事ヲ載スル者ハ罪第十二條ニ同シ

一従前新聞紙刊行毎ニ一部ツ、文部省ヘ差出サセ候處今般御頒布ノ條例中内務省ヘ可差出旨明文

無之檢査ニ差支候間左ノ一ヶ條御加ヘ相成度候事

第 條

東京府下新聞紙ハ出版毎ニ二部ツ、内務省ヘ納ムヘシ他ノ府縣ハ出版毎ト直ニ郵便ヲ以テ送送スヘシ違フモノハ發行ヲ禁止ス

右至急御指揮相成候様致度候也 七月十三日

第一條 同ノ通

第二條 辯駁中固ヨリ誹謗アリ言ヲ論スルモ亦人ヲ論スルニ涉ル者アリ區分ノ論ハ無用ニ屬ス

第三條 同ノ通

第四條 聞届ケ難シ

但新聞社中ニ難症ニ至ラサル様、方法ヲ其省

ヨリ指示スベキ事

第五條 寓言ヲ以テ人ヲ動スハ直指スル者ノ切ナルカ如キニ至ラズ且事實ノ確据スヘキナキ者ハ法ノ罰スヘキナシ其成法ヲ誹毀スルノ確据アル者ハ其應ヲ以テ罰スヘキニ付更ニ條ヲ加フルニ及ハス

第六條 第百廿四號ノ通布告候條此旨可相心得事

七月三十日

本文布告ハ前ノ條例ノ下ニ載ス

法制局議案

内史本課
登査

別紙内務省同新聞紙條例擬問ノ蘆左ノ通り御指令相成可然哉仰高裁候也 七月十八日

内務省同

東京府下新聞社共謗謗律新聞條例中疑ノ件々別紙

ノ通り伺出候ニ付審按候處蓋シ人世ノ事タル森羅萬象一々其的律ヲ求メント欲スルモ決シテ得ベカラス故ニ律例ナル者ハ其最著明ナル概目ヲ揭示シ犯者アルニ當テハ其事理ノ近キモノニ擬シテ之ヲ處断ス則法官ノ取舍ニアリテ人民政府ニ對シ之カ辨解ヲ求ムルノ權利ハ決シテアルベカラス政府若シ之ヲ知ラシメント欲セハ獨新聞社ノミナラス戸毎ニ説キ人毎ニ諭シ日モ亦足ラス如何共不都合ノ伺ト存候ハ此中ニハ指令ニ及ヒ可然筋無之トモ難申當省ニ於テ見込モ難相立候間何ハ御指揮被下度此段相伺候也 八月三日

伺ノ趣別段不及指令候條書類早々送付可致事

八月三十日

東京府同内務省宛

府下新聞紙社日報社外六社ヨリ謗謗律共新聞紙條例、儀ニ付別紙、通御省へ同書差出候間致進達候可然御指示有之度候也七月十七日

東京日々新聞日報社編輯人長 岸田吟香

社主 廣岡章助

郵便報知新聞報知社編輯人長 栗本鋤雲

社主 小西義敬

東京曙新聞日報社編輯人長 末廣重泰

社主 青江秀

評論新聞集思社編輯人長 吉島高尚

日新真事誌一新社編輯人長 高見澤茂

社主 日野春草

朝野新聞社

編輯人長 成島柳北

社主 赤木真丈

讀賣新聞日就社編輯人長 鈴木田正雄

社主 伊藤重信

謗謗律并ニ新聞條例ノ儀ニ付別冊ヲ以テ内務省へ奉同度候間至急御執達被下候様奉願候也七月十二日

諸新聞社編輯人并社主願内務省宛

今般政府ニ於テ謗謗律并ニ新聞條例ヲ被定候旨明治八年六月廿八日太政官百十號及七百十一號ヲ以テ御布告相成候ニ付私共ハ篤ク此律例ヲ奉戴シ小心謹密以テ禁止ノ罪ヲ犯サル事ニ注意仕度候處右ノ律例ハ辭約ニシテ意深ク私共各目ノ新聞ヲ編輯シ發行スルニ當リ往々實際ニ於テ御趣意ノ在ル

所ヲ分明ニ諒解致魚候ヨリ心得方ニ迷ヒ目下ニ差
問候儀不少候右ノ慮々ハ即チ列冊ヲ以テ奉伺候間
至急御指令被下候様奉懇願候也 七月十二日
謄謄律太政官第百拾號ノ列冊明治八年六月廿
八日ノ御布告
第四條 官吏ノ職務ニ關シ謄毀スル者ハ云々誹謗
スルモノハ云々トナリ

〔例〕日本政府ハ現ニ新舊公債證書ノ條例ニ付キ其
改正ヲ行フタリ其改正ヲ見ルニ先キニ一年兩
度ト定メタル利足拂渡ノ期限ヲ變シテ一年一
度ト成ス是レ公債證書ノ持主ヲシテ明ラカニ
利息ヨリ生ルノ利益ノ半半ニ失ハシム者ナ
リ假令ハ政府ニテ之ヲ改正セント企ツルモ大
藏卿ハ信ヲ一人民ニ保ツ為ニ之ヲ承託ス可カ

ラス故ニ我輩ハ大藏卿某君カ其ノ職務ヲ盡サ
ル事ト見做スナリ

〔例〕向島ノ百姓三五兵衛ハ今年十二歳ニナル俤源
五兵衛ヲ牛島學校ニ通學セシムルニ其ノ教師
林子平カ授クル所ノ句讀其外ニ誤謬多シ三五
兵衛ハ百姓ナレド相應ニ學問モ出来ル故其子
ノ教師カ不學ニテ任ニ堪ヘサルヲ嘆キ居ルト
ノコトナリ我輩ハ文部省或ハ東京府廳ノ學務
課カ教師ヲ選舉スルニ當リ一層ノ注意ヲ成サ
ンコトヲ希望ス

右ノ二章ハ即チ第四條ノ謄毀或ハ誹謗カニ當リ
候哉將々新聞條例第八條ノ議論ト相心得不苦候
哉御明示奉願候也

新聞紙條例

太政官第百十一號ノ別冊 明治八年六月廿八日ノ御布告

○第一條

〔第一疑〕條例中ニ印刷人トアリ印刷人ノ字儀ニ付私共各自其ノ解ヲ異ニス一解印刷人トハ出版人ノ儀ニ候哉或ハ活字ヲ集メ摺方ヲ成ス雇入等ノ長ヲ指シテ申ス儀ニ候哉

〔第二疑〕一人ニシテ持主編輯印刷ノ三者ヲ兼ホ或ハ二者ヲ兼ル儀ハ此條例ニ於テ禁セサル所ノ如〔第四疑〕之ヲ詳言ス〔兩シテ罪ヲ犯シ罰ヲ受ルニ當リテハ三者ヲ兼ル者ハ三者ノ罰ヲ併受シ二者ヲ兼ル者ハ二者ノ罰ヲ併受スヘキ儀ニ候哉將々魚粉ノ者ト雖モ一罰ニ止ル儀ニ候哉

○第二條

〔第三疑〕時日ヲ限り發行ヲ止ムル者ヲ停止トスアリ禁獄罰金ノ如キハ各々例ノ明文ヲ以テ限度ヲ示サルト雖モ本條以下更ニ停止ノ限度ヲ載ラレス右ハ法司ニ付シテ罪ヲ問ハル、ニ臨ミ私共ハ法司ヲ專斷シテ命スル所ニ從フテ發行ヲ停止シ他ノ諸犯ノ如ク法律ノ明文ニ於テ罰ヲ受ル儀ニハ無之候哉

○第五條

〔第四疑〕持主若クハ社主ニシテ編輯人タルヲ得ル以上ハ印刷人タルヲ得ヘク而シテ編輯人モ亦持主或ハ印刷人タルヲ得ヘキ儀ト相心得不苦候哉

○第六條

第五條編輯人若シクハ編輯人長疾病事故アル時ハ代理人ヲ定メ其名ヲ署ス可シ若シ名署セサル時ハ云々トアリ今茲ニ甲ノ編輯人アリ疾ニ罹リテ罷居シ自ラ代理人ヲ定ムル事ヲ得サル時ハ持主ハ別ニ乙ノ編輯人ヲ定ム可シ第十條此ノ時ニ臨ミ紙尾ニ名ヲ署セサル事アルカ或ハ甲ノ名ヲ假托スルヲアラハ其實證アル以上ハ本條ノ罪ハ勿論乙ニ歸シテ甲ニ歸セサル儀ト相心得不苦候哉

○第八條

第六條尋常ノ瑣事トハ諸新聞紙上ニ記載スル所雜報ヲ指シテ申ス儀ニ候哉尋常雜報ト雖モ内外國事理賤人情時態學術法教議論及ヒ事官民ノ權利

ニ係ラサル者ナシ然ル時ハ尋常ノ瑣事ト瑣事ニ非サルトノ分畧ニ於テ太々判然ナラサル所アリ編輯人ノ意ニ任セテ此分畧ヲ決シ候テモ不苦候哉

第七條凡ソ記載ノ論說記事ニ於テ一々名ヲ署セサル者都テ編輯人長或ハ諸編輯人ノ手ニ就ル旨ヲ一旦紙上ニ於テ公告イタシ候上ハ日々毎款ニ署名セサルモ敢テ第八條ノ禁ヲ犯スニ非スト相心得不苦候哉

第八條筆者變名ヲ用ヒ或ハ他人ノ名假托スルノ罪ハ固ヨリ犯者ニ限リ編輯人等ハ決シテ之ニ連累セラレサル可シ譬ハ投書ノ如キハ都鄙遠近ヨリ郵寄スルヲ以テ編輯人ハ孰レカ其變名ナル孰レ

カ其眞名ナルヲ詳ニスルニ由ナシ姑ラク臆測ヲ
以テ實名ナル可シト想像スル文ケニ止マル而已
サレハ其眞假ニ於テハ責ニ任シ得ヘキ理ナシト相心得不苦候哉

○第十一條

第九款 辯白書若クハ改正ヲ求ムルノ書ヲ受取リシ

ヨリ直ニ具ノ次端ニ刷出スヘキ旨ニ有之然ルニ

第一 明日曆ハ七ニ發行スル新聞紙ハ大抵今日月セ

日ノ晝間ニ之植字シ黄昏ヨリ之ヲ印刷スルヲ

以テ若シ辯白書ヲ今日日ノ午後ニ受取ル時ハ何

程ノ手繰ヲ用フルモ明日日ノ紙中ニ刷出スルヲ

得ス第二 休日ニ當レハ之キ翌日ニ刷出スルヲ得

ス第三 一日中ニ數通ノ辯白書ヲ受取リ晝ク

之ヲ一日ニ掲ケ難キ事アリ或ハ長文ニシテ全紙

ノ幾分ヲ要スルヲ以テ一日ニ全文ヲ記載シ難キ

事アリ○支レ指名サレタル官民ノ為メニ辯白ヲ

載セ改正ヲ成スハ私共カ尤モ欲スル所ナリト雖

モ右ノ如キ情實ニ阻格セラル、有ルヲ以テ休

日ヲ除キ其書ヲ受取リシ翌日ヨリ三日ノ間ニ記

載セハ次端ニ刷出スルノ令ニ違ハサル者ト相心

得不苦候哉

第十款 申ノ新聞紙曆ハ七ニ於テ指名サレタル官民

ヨリ辯白書等ヲ申ノ新聞紙社朝野ニ寄スル事ア

リ乙ハ固ヨリ我カ責ニ任スベキ所ニ非サレハ都

合ニヨリテ之ヲ其ノ次端ニ刷出セサルヲアル可

シト相心得不苦候哉

第十一款 辯白書若クハ改正ヲ求ムルノ書中或ハ謬

謗律ノ禁ヲ犯シ或ハ新聞紙條例ノ禁ヲ犯ス者、
リ筆者ノ許可ヲ得サレハ編輯人ハ其文章ヲ刑正
スルヲ得ス又刑正スレハ辯白ノ本意ヲ失フ
ナキヲ保セス是等ハ都テ記載刷出イタスニ不及
ト相心得不苦候哉

○第十三條

第十二條 政府ヲ變壞シ國家ヲ顛覆スルノ意ニ非ス
騷動ヲ煽起セントスルニモ非サレ凡文ヲ舞ヒテ
論スレハ或ハ本條ノ禁ヲ犯スニ似タル者アリ左
ニ掲クル所ノ二例ハ此禁ニ觸レサル者ト相心得
不苦候哉

例 君主專制ノ政體ハ最早今日ニ維持ス可カラス
如何トナレハ日本人民ハ人民タルノ權利ヲ以

法律ヲ設ケ政府ヲ建ルノ理アレハナリ故ニ我
輩ハ切ニ希望ス日本政府ハ早ク此機ニ先タテ
君民同治ノ政體ヲ建タレン事ヲ

例 官費官費トサヘ云ヘハ役人ハ之ヲ日本政府固
有ノ金穀ノ如クニ思ヒ人民モ亦政府ノ賤賈ノ
如クニ心得コレヲ遣ヒ拂フニ付テハ相談ニ
乗フ凡思ハス役人任カセニ仕置クハ何ソヤ官
費トテ本ヲ正セハ我輩人民カ出シタル租税ノ
集メ金ニハアラスヤ故ニ日本人民ハ國會ノ手
ヲ經テ公然政府ニ向ヒ其遣ヒ拂ノ内譯ヲ明細
ニ質問スルノ權利アリ若シ政府ハ此質問ニ對
シテ明瞭ノ内譯ヲ示サハルヲアラハ是レ即チ
其職分ヲ怠タルノ政府ナリ我輩ハ之ニ服従ス

ルニ及ハサル可シト信ス

○第十四條

第十三條 成法ヲ誹毀シテ國民法ニ遵フノ儀ヲ亂リ
トアリ國民法ノ三字ニ於テ私共各自其解ヲ異ニ
ス右ハ國民トシテ法ニ遵フノ意ニ候哉或ハ國法
民法ニ遵フノ意ニ候哉

第十四條 誹毀スルトハ筆者力條理ト認ムル所ヲ演
述セスシテ一概ニ成法ヲ惡シキ様ニ言ヒ做スノ
謂ヒナリ若シ條理ヲ推究シテ成法ヲ是非セハ其
條理ノ當否ヲ問ハス是レ論議スル者ニシテ誹毀
スルニハ非サル可シ左ニ掲クル所ノ三例ハ此禁
ニ觸レサル者ト相心得不苦候哉

例 日本政府ハ仍ホ華士族ノ為ニ閔刑ノ特典ヲ存

ス夫レ閔刑ノ設タルヤ昔日ニ在リテハ或ハ可
ナリ今日ニ在リテ決シテ不可ナリ一視同仁ノ
聖意ニ於テ同罪異罰ノ法律アルヘキ理ナシ彼
ノ破廉耻甚ヲ以テ族ヲ除クトハ是降シテ平民
ト成スノ實ナレハ日本政府ハ五十萬ニ足ラサ
ル華士族ノミヲ貴ヒテ廉耻ヲ知ル者トシ三千
二百萬ニ過ル平民ヲ賤メテ廉耻ヲ知ラサル者
トスルカ我輩ハ堂々タル大日本帝國ノ為ニ之
ヲ耻ツ云々

例 文部省ノ學制タル固ヨリ美ナリ然レトモ私立
小學家塾ノ末ニ至ル迄盡ク之ニ遵奉セシメン
トスルハ教學ノ自由ヲ妨クルヲ免カレス假令
ハ村學究ヲシテ文部ノ教則書ヲ閱キ一ニ四書

五經ヲ以テ生徒ヲ教授セシムルトモ吾政府ハ
之ヲ禁止スルノ條理ナカルベシ何トナレハ學
術ハ人々ノ自由ニ在リ有司ノ權カヲ以テ人ノ
方向ヲ變セシムル可カラサルヲ以テスレハナ
リ云々

例 拷問具ヲ用ヒテ罪人ヲ審問スルハ日本政府ノ
成法ナリト雖モ我輩ハ斷然之ヲ非ナリトス夫
レ拷問ハ罪犯ノ實ヲ得ル為ニ之ヲ假用スルニ
過キス而シテ身軀孱弱ナル者拷問ノ苦楚ニ遇
フテ冤罪ニ自結シ或ハ韋ニ冤ヲ伸フルヲ得ル
モ為ニ終身ノ不具ト成リ然ラサレハ不測ノ疾
病ヲ招ク者ナリ開明ノ氣運ニ當リ孰ソ此ノ野
蠻ノ陋習ヲ今日ニ存ス可ケンヤ現ニ歐米ノ諸

州ニ於テハ夙ニ此陋習ヲ廢シ云々

第十五疑

刑法ニ觸レタルノ罪犯ハ固ヨリ之ヲ曲庇

スヘカラズト雖モ或ハ他人ノ為ニ冤枉ヲ伸ベン
為ニ記載スル所ノ者ニシテ其外面ハ本條ノ禁ヲ
犯スニ似タル者ナリ左ニ掲クル所ノ二例ハ此禁
ニ觸レサル者ト相心得不苦候哉

例 花川戸ニ住ム助六ト云フ男ヲ駒籠吉祥寺ニ參

詣シ住持一休和尚ト口論ニ及ビタル際一休ヨ
リ先キニ手ヲ下シ助六ヲ打擲ニ及ニヨリ助六
モ之ニ抵抗シテ雙方傷ヲ負ヘリ然ルニ東京裁
判所ニ於テ獨リ助六ヲ毆傷律ニ當テ罰シタリ
シカバ助六憤悶ニ堪ヘス之ヲ上等裁判所ニ控
訴セント思ヒシニ俄ニ難病ニ罹リ家内ニ代テ

明治通寶
新格幣ナレハ太政官札ノ有ルハキ

出訴セントスル者無ク代言人ヲ雇フ為メノ金
錢モ無シ實ニ此度ノ處刑ニ付テハ助六ノ冤罪
タルハ人ノ知ル所ナリ開明ノ時節ニカ、ル冤
罪ヲ負フ者アルハ嘆ク可キナリ

〔例〕六波羅縣下ニ於テ入札ヲ以官林ヲ拂下ニ成リ
シ時ニ平家村ノ阿久七兵衛ト云フ者ハ落札ニ
相成リタリ依テ七月二日百五拾圓ヲ明治通寶
ノ壹圓札ニテ取揃ヘテ之ヲ封シ上ニ金高姓名
ヲ記シ封印ヲ押シ戸長ノ手ヲ以テ納メタリシ
カ其後縣廳ヨリ御呼出シニテ右納金ノ内金拾
圓ハ贋札ノ趣ヲ以テ太政官札ニテ御下ケ返シ
ニ成リタリ然ルニ前日ノ上納金ハミナ一様ノ
明治通寶ノ新格幣ナレハ太政官札ノ有ルハキ

謂ハレナシ前日ノ封シ紙ヲ以テ證トスベシト
論スレドモ縣廳ノ役人岩永左衛門ハ左様ノ事
ハ此方ノ如ル事ニ非ストテ種々説諭ヲ加ヘ揚
ケ句ノ果ニ入牢ヲ命シ現ニ獄中ニ繋リタリ
近隣ノ人々ハ七兵衛カ不幸ノ罪ニ遇フ事ヲ憤
ラサル者ナシ

○第十五條

〔第十六條〕目撃スル所ノ現行犯罪ノ如キ或ハ警察官
吏ノ為ニ捕縛セラレタル犯罪ノ如キハ本條ニ於
テ禁スル所ノ斷獄下調ニ係リ未タ公判ニ付セサ
ル者ニ候哉將タ左ニ掲クル所ノ六例ノ如キハ本
條ノ禁ニ觸レサル者ト相心得不苦候哉

〔例〕米國人ナボレオンウキルリントント申ス外

太政官

國人カ昨日ノ午頃銀坐ノ通りヲ赤兎馬ト名附ケタル馬ニテ乗切リタルニ三丁目ノ四ツ角ニテ人力車ニ乗り掛ケ車夫ト乗客トヲ傷ケシカ直チニ巡査ニ押ヘラレテ第一大區ノ公署ニ拘引セラレタリ。

例 昨夜深更ニ及ヒ島原ニ女カ三人巡査ニ捕ハレ
タリ其名ハ曰ク玉屋ノヲタマ曰ク三浦屋ノヲ
タカ曰ク扇屋ノヲユフ何レモ此節流行ノ地獄
タト申ス事

例 神田ハ町堀ノ椽綿屋彌次郎兵衛ハ去ル十日ノ
夕カタニ餘リ酒ヲ飲ミ過キテ女房オキタト喧
嘩ヲ致シ摺木ニテ女房ノ臀ヲ打テタルニ女房
ハ中々ノ剛カト見エ有リ合ノ櫓鉢ヲ振上ケテ

彌次カ眉間ニ敲キ付ケタリ何カハ以テ堪ルヘキ彌次カ額ハ柘榴ノ如クニ割レ兩手ニテ之ヲ押ヘナカラ助ケテ吳口ト呼ビ立ル巡查ハ之ヲ聞キ付ケ直ニオキタヲ引立テ警視分廳ニ迎レ行キ彌次ハ病院ニテ此跡專ラ療治最中ナリト申シマス

例 去ル二十日某町ノ某宅ハ忍ビ込マシト板扉ヲ
乗越シニ掛リタル怪シキモノアリ夜番ノ者カ
之ヲ捕ヘテ警視廳ニ訴ヘタルニ其モノ姓名
ハ何國何ノ誰ト申シテ魚テ御尋子ノ盜賊ダソ
ウテ御坐リマス

〔例〕何屋ノ妻オラニハ近所ニ名高キ不行狀ヲ婦人ニ有ツタカトフ、其亭主ニ姦淫ノ次第ヲ訴ヘ

ラレテ昨日御召捕ニ成リマシタ

例此節一種ノ騙ヲ行フノ惡徒アリ是三十四五歳ノ町人跡ノ男ニテ自カラ上野某々村ノ伊勢屋似勢次郎ト名乗リ小包、ミニ米ノ見本ヲ入レテ米高ノ宅ニ来リ私ハ誰ト申ス者ニテ品川沖ノ船中ニ此見本ノ米ヲ千俵程所持イタシ之レヲ賣リ捌バク積テ御坐ル何程ナラバ御相談イタシマスト話シカケ荷物ノ送り状ヲアツケテ金何拾圓ヲ手附ニ受ケ取り明日ヲ約シテ去ル數日ヲ経テ来ラズ米高ハ之ヲ怪シミ品川沖ニ到リテ尋ヌレニサル船ハ固ヨリ碇泊セズ勿論送り状モ貨物ニテ有リキ此策ニ欺カレタルモ、ハ何町ノ誰何町ノ誰ト己ニ三人以上ニ至

リ各々其筋ハ訴ヘタルヨシナリ米高ハ深ク注意アルヘシ

○第十六條

第十七條 上書建白ヲ載セルト欲スル時ハ建白者ノ

トフルト否々各自ノ新聞編輯人ハ其寫ヲ副ヘ院省

使廳ニ向テ許可ヲ乞フベシ書留郵便ヲ以テ預シテ

其ノ院省使廳ハ此ノ上請ヲ受取リタル翌日ヨリ

遅クモ五日ノ間ニ可否ノ指令ヲ副ヘテ右ノ寫シ

ヲ郵便ニテ下附有之候様奉願候若シ五日ヲ過テ

指令ナキ者ハ即チ官ノ默許スル所ト見做シテ之

ヲ記載スルモ敢テ本條ノ禁ニ觸レサル儀ト相心

得不苦候哉

第十八條 懇請書歟願書ノ類ハ上書建白トハ別種ノ

者ト相心得不苦候哉

右ノ諸件ハ其ノ果シテ禁令ニ觸ル、ヤ否ヤヲ知ラ
ス目今私共各自ノ新聞紙ヲ編輯シ刷行スルニ當リ
心得方ニ於テ甚々差支候間至急御明示被下候様建
署シテ奉懸願候也

法制局議案 内史本課
歴査

別紙内務省同府下諸新聞社共謄謄律新聞條例中疑
問ノ件々同出ノ儀左ノ通御指令相成可然哉仰高裁
候也 八月十五日

内務省布達 府
縣

於年^日太政官第百廿四號ヲ以テ新聞紙及時々ニ刷
出スル雜誌雜誌類納方ノ儀公布ノ處中ニハ不納
、向モ有之不都合ニ付自今刷出スル毎ニ必可相納

旨管内右營業ノ者ハ普達可致此旨相達候事

但舊准刻事務圖書察管理ニ付自今同察へ可相納
事十一月十五日

司法省伺

今般謄謄律並ニ新^開條例御發行ニ付テハ實施上即
今差支有之左ノ條件至急御指令相成候

第一條 謄謄律ニ觸ル、件々ハ一般士民ハ言ニ及

ハス官吏官廳ヨリ上書建白セシ類ト雖モ自ラ新
聞紙等ヲ以テ世ニ公布スル者ハ一般同様ノ憂分

ト相心得可然哉 本條ハ本戸參議ノ附屬官廳ノ公
上ノ建白ヲ公布スヘキノ理ナシ

若シ漏ラシタルモノ
ハ自ラ律アラシ

第二條 新聞條例第十六條ニ院省使廳ノ許可ヲ經

スシテ上書建白ヲ載スルヲ得ス犯スモノハ云々ト有之右許可ト稱スルハ上書建白ヲ受取タル院省使廳ノ許可ニ候哉又ハ上書建白ヲ捧ケタル院省使廳ノ許可ニ候哉但シ許可ヲ受タル新聞社ハ縱ヒ讒謗ノ事ニ觸ルハト雖モ其罪ヲ問ハス許可セシ官吏即チ其罪ニ坐ス儀ト相心得可然哉條本
へ内史ノ附箋上書建白ヲ受取タル院省使廳ノ許可ト可相心得事但以下同ノ通
右相伺候也 七月七日 司法

第一條 讒謗律ハ官廳ニ及フノ文ナシ但シ官廳ノ公文上申ニアラスシテ官吏職務外ニ於テ上書建白スル者ハ平民ノ例ニ同シタルヘシ
第二條 新聞條例第十六條院省使廳ノ許可ヲ捧ケタルト受ケタルト分ツノ文ナシ是レ一般ニ許

可ノ權ヲ有スルナリ但官廳ノ公文上申ヲ除クノ外官吏タリモ其職務外ノ上書建白ハ平民ノ例ニ同シキヲ以テ必ラス之ヲ受ケタルノ官廳ヨリ許可ヲ得ルヲ要スヘシ 七月十九日

大久保参議へ申白 内史
別紙御廻申上候板垣大本寺島三参議ハ付紙へ鈴印有之候へ氏伊藤参議ハ本紙モ主トシ付紙へハ更ニ鈴印不致トノ事ニ有之候御参考ノ上兩條ノ内イヅレカ御決印可被下候也 七月十四日 司法

内史本課議案
別紙司法省伺讒謗律及新聞條例ニ付テ即今差支ノ條件致審査候處右ハ左ノ通御指令相成可然哉仰高裁候也 七月十日 司法
本件ニ付板垣大本寺島三参議ハ内史ノ附箋ヲ裁印シ木戸参

大正
三年
八月
十四日

議ハ同上但以下云々ノ附箋ト本議指令案ノ第一條
ヲ可トシ大久保伊藤兩參議ハ本議ヲ全ク可トセラ
ル決裁如此區々ナレハ法制局及司法
内史へ照會ノ上本議ノ通指令相成ル

八月十四日

新聞條例犯案ノ件ヲ候ス司法卿責任中ニ付伺ニ不及
旨ヲ令ス

司法省伺

新聞紙中犯條處分ノ儀ニ付別紙件々相伺候間至急
何分ノ御指令有之度此段相伺候也
七月三十一日
司法省

別紙

一東京曙新聞第五百二十五号社説ニ朝鮮事情ヲ述
タル曖昧ノ書翰ヲ掲載ス右ハ大ニ人心ニ關係シ其
害不尠候ヘ氏條例ニ正條無之右等ノ類ハ處分方如
何相心得可然哉

一東京日々新聞七月十二日第千六十五号社説風聞
ニ托シ當省ノ伺書ヲ掲載ス右ハ素ヨリ許可ヲ經ス

大正
三年
八月
十四日

且又當省伺ノ文面トハ聊齟齬モ有之甚々事ニ於テ
害アル儀ニ付紀治可致ト存候ヘ氏新聞紙條例中の
條無之候是等ハ處分方如何相心得可然哉

一東京日々新聞七月十三日第千六十六号末松謙澄
戲筆其評題ノ如キハ戲譚ニ託スルト虽氏本文ニ至
テハ實事ヲ以テ言ヲ餐ス到底地方官會議ノ決スル
所ヲ誹毀スル筋ニ相當リ候是等ハ處分方如何相心
得可然哉

一朝野新聞本月五日第五百六十三号新聞編輯者ニ
贈候賀表中至仁ノ政府ハ禁獄ノ罰ヲ設ケ云々又政
府ノ條例ヲ設クルハ陽ハ犯罪ヲ罰スルニ似タレ共
云々ハ背面諷謗律新聞紙條例ニ抵觸スル者ト虽氏
表面感戴ノ趣ヲ露ハ是等ハ處分方如何相心得可然

哉

一東京日々新聞七月四日第千五十八号諷謗律新聞
條例ヲ論セシ社説ニ周厲秦皇一輩ノ人主タラシメ
ント欲スルカ云々或ハ論者ノ反動ヲ買フ為メナリ
ト或ハ暴君汚吏云々等ノ語ハ諷謗律ヲ犯スニ似タ
リト雖氏靜々其行文ノ閑接ヲ檢査スルニ暴君汚吏
云々ハ本来ヲ論スル意ニテ万一政府ノ意斯ニアレ
ハ斯ク明言スヘキモノト設ケ云フナリ故ニ若シノ
字ヲ以テ之ニ冠ラシメ而シテ其末其答ハ之レナシ
ト断セリ周厲秦皇云々ハ其末其然ラサルヲ辨セリ
又反動ヲ買フ為ナリト云々ハ素ヨリ政府ノ意ニ反
スハ勿論ナレトモ徒タ論者自ラ思想シテ世論ノ其
盛ヲ極メサルヨリ反動ヲ買フ為ナリトナレハ諷毀

大正
昭和
明治
大正
昭和
明治

誹謗ノ意ニ非ス又謾毀誹謗ノ語ニラス就テハ罪ノ問ヘキ庶無之候下全賅ノ文章語氣ヨリシテ意ノ所在推究スレハ謾謗律ヲ犯スノ罪ハ免難ク候是等ハ要分方如何相心得可然哉

司法省へ通達 史官

新聞條例犯罪要分ノ儀ニ付伺ノ趣ハ司法卿責任中ノ事ニ有之其要分ハ同卿ノ意見ニ任セラレ別段不及御指令トノ旨ニ候條別紙伺出及御返却候此段申入候也 八月十四日 司法

法制局議案 内史本課歴査

司法卿伺新聞紙犯罪要分ノ儀ニ付審案仕候要右ハ司法卿責任中ノ事ニ可有之其ノ要分ハ即チ司法卿ノ意見ニ任セラレ候儀ニ候ハ伺ノ趣無用ニ相見

改訂
同

一候仍之書面此儘返却相成可然此段上申候也 八月十四日 司法

司法省伺

関刑律中禁錮ヲ禁獄ニ改メラレ候得共禁錮條例ハ御改正無之ニ依リ関刑ノ禁獄ニ屬スル者ハ直ニ禁錮條例ニ依テ處分可致處関刑ヲ除ク外新聞條例等ヲ犯シ禁獄ニ屬スル者関刑ト同ク處分ハ難致ニ付例第十九條及ヒ第二十一條ハ援用難相成儀ト心得可然我至急御指令被下度候也 九月十七日

伺ノ趣士族平民ヲ問ハス例第十九條及第廿一條援引處分候儀ト可相心得事 十二月六日

法制局議按

別紙司法省伺新聞條例等禁獄ニ屬セラレ若取扱方

大正
昭和
明治

ノ儀審按候處元來禁獄ハ閏刑ニシテ即チ士族以上
ノ刑名ニ候處新聞條例等亦其罪名アリ己ニ名同シ
テ處分異ナルハ穩當ナラサル儀ニ付左ノ通御指令
相成可然哉仰高裁候也
明治十一年

四月二十四日

新聞紙條例第八條筆者其姓名住所ヲ著サハル者ハ不
問ニ置ク

司法省伺

新聞紙條例第八條筆者ハ尋常ノ瑣事ヲ除ク外凡ソ
内外國事理人情時態學術法教議論及事官民ノ權利
ニ係ル者ハ皆其姓名住所ヲ著ス可シトアリテ其姓
名住所ヲ著サハル者ノ罰ナニ右ハ不問ニ置ク可キ
儀ニ候哉又ハ同條後項ニ愛名ヲ用ヒタル者ノ罰例
アルハ之ニ照シテ處分可致儀ニ候哉即今伺出ノ向
モ有之候間至急御裁下相成度此段相伺候也
四月十日
同ノ趣ハ不問ニ置クヘキ儀ト可心得事
十年

法制局議按

大政類典

紙
通

目

本
正
類
典

別紙司法省同新聞紙條例第八條ノ儀審按候處該條
ニ筆者ヲ罰スルノ明文無之上ハ因ヨリ不問ニ置
候外無之且ツ其事ニ害アルモノニアラサレハ氏名
ノ載不載ニ関セサル儀ニ付左ノ通御指令相成可然
哉仰高裁候也
四月廿一日
司法

七月五日
九年

第九十八号

已ニ准允ヲ受タル新聞紙雜誌雜報ノ國安ヲ妨害スト
認ノラル、モノハ内務省ニ於テ其發行ヲ禁止又ハ停
止スヘシ

右布告候事
内務

内務省同

新聞紙發行許可ノ後國安上妨害アリト思量スルモ
ノ發行差止ノ候儀ハ當省推内ノ處分ニ有之儀ト存
候ハ共此段為心得伺置度候也
七月一日
内務
伺ノ趣第九十八号布告ノ通可相心得事
七月五日

法制局議案

別紙内務省同新聞紙發行差留ノ儀ハ無論全省推内

紙端
三

四十一

三

大
政
類
典